



三十八柱神社の本殿 桜井市大福で



（住所）桜井市大福479
 （祭神）宮中三十六柱、伊邪那岐命、伊邪那美命
 （交通）近鉄大阪線・大福駅から北へ徒歩約5分
 （所蔵品）陶製狛犬、木製狛犬Ⅱと
 もに原則非公開
 （駐車場・電話）無し

三十八柱神社（桜井市）



三十八柱神社は寺川の南側、三輪山が東に見える位置に鎮座しています。ご祭神は宮中三十六柱と伊邪那岐命、伊邪那美命の計三十八柱で、神社名になっています。法隆寺に伝わっていた「太子伝玉林抄」という本には、「聖徳太子伝暦」の注記に、小墾田宮

は大福の地にあった、との記載がありました。当

社に伝わっている「三十八柱神社由緒記」の1718（享保3）年の記録では、当社を「小治田宮」と呼んでおり、明治初期の神仏分離の際に現在の名称に改めたことが分かっています。

郷土史を研究した前宮司の石井繁男・元県立奈良図書館長が小墾田宮Ⅱ大福説を1975年に提唱。この説を支持された哲学者の梅原猛氏揮毫の「小墾田宮伝承之地」の石碑が境内に建てられています。これと別に明日香村豊浦の古宮遺跡が、発掘調査の結果、小墾田宮推定地とされています。

秋祭りは毎年10月第1土曜と日曜に行われ、境内では神楽が舞われ、参拝者には一人ずつ鈴でお祓いをする、全国的に珍しい形で齋行（さいこう）されています。

ご祭神の数を名称に

（奈良まほろばソムリエの会会員 弘瀬典子）